

データサイエンス教育に関わる コンテンツ開発

芸術学部
ソーシャルデザイン学科
教授
井上 貢一



研究シーズの紹介

データサイエンスの最大の関心事は、物事の背景にある原理を探ることです。それは科学全般に言えることですが、従来の科学のように科学者の経験的な直感によってその仮説が生まれるのではなく、あくまでも、現実世界にあるデータからそれを数学的に導き出すということがデータサイエンスの特徴だと言えます。

地域の魅力は、関係当事者の経験からは発見できないことが多くあります。そこに訪れる人の行動や、ブログ上のコメントテキストなど、大量のデータを分析することで、その掘り起こしができる可能性が高く、ここに、誰もが手軽に使えるデータサイエンスの手法、コンテンツの開発研究を行う意義があります。



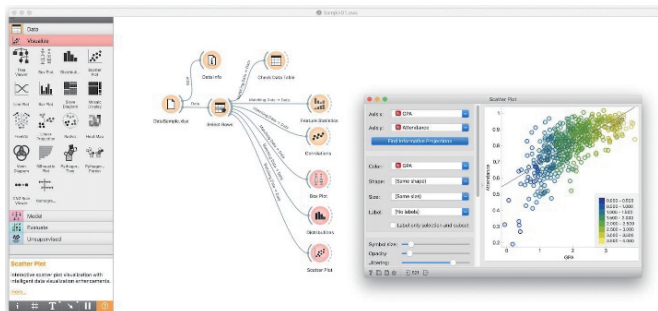
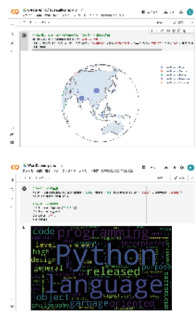
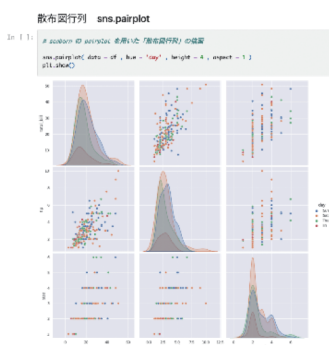
オープンな環境

- GoogleColaboratoryはクラウドベースのPython開発環境
- Orangeはオープンソースのデータマイニングツール



GitHubリポジトリ

- GitHubはオープンソースのホスティングサービス
- Jupyterノートブック (.ipynb) の公開にも対応



期待される活用シーン

- 教育に適した開発環境が欲しい
- 初心者でも簡単に体験できるツールが欲しい



インターネット上のサービスや、オープンソースソフトウェアの利用で誰もが簡単に体験可能。



- 教材の提供や、文書の共同編集がしたい
- 資料のバージョン管理を効率的に行いたい



ホスティングサービスの利用することで、教材の提供は簡単。



その他の研究テーマ

- ・組織のソーシャルデザインに寄与するCMSの構築
- ・遠隔・非同期・オープン - ポストコロナ社会へ向けた意識改革
- ・コーディング - 世界で一番小さなデザインの方法